

株式会社 秋田研磨工業

未だ見ぬ新しい技術で
誰も創れないものを創る



羽後町出身の阿部社長が、大手メーカー勤務を経て1985年に独立・創業。
 サファイアガラス、半導体及び精密部品などの難削材の研磨加工を得意とし、腕時計用サファイアガラスは
 2,000種以上の加工実績を誇る。1990年、湯沢市の誘致企業として現社屋に移転。
 2017年12月、湯沢市伝統の川連塗りなどをあしらった高級万年筆「KEMMA」を発売し、大きな話題を呼んでいる。

時代を先駆する研究開発型企業

ダイヤモンドに次ぐ硬度を誇るサファイアを人工的に作り上げたサファイアガラスの強度は一般的なガラスの約2倍、壊れにくさはステンレスの10倍といわれている。さらに光を透過させるその美しさは、高級腕時計のカバーガラスや電子部品の基板等に使用されており、その性質ゆえに求められる加工精度やその難易度は非常に高い。そんな高度な技術を誇る秋田研磨工業は、阿部社長が30代で興し、築き上げてきたものだ。
 阿部社長の生き方はまさに“挑戦”の連続。炭焼きで生計を立てる両親の後ろ姿を見ながら育ち、幼いころから“将来社長になる”ことが夢だった。地元高校を卒業後、両親の勧めで一時は地域振興局に勤めたが民間企業で活躍してみたい想いに駆られ、半年あまりで大手メーカーに転職。事務系からの配置転換によりすぐ、東京本社へ出向し、新設のサファイアの開発部門に抜擢された。未開拓のサファイア研究は困難を窮めたものの、持前のバイタリティで知識と技術を磨いていった。

その後、幼いころに描いた夢の通り、32歳で独立。大手メーカーの腕時計の風防のサファイアカバーガラスを中心に、次々と新事業に着手する。
 「会社を興した時に心掛けたことが3つあります。まずは、零細企業から中小企業への仲間入り。それから、新製品の開発。そして、福利厚生充実。これは金銭面の待遇だけでなく、精神的な余裕や自信を生み出すことも示唆しています。働いてくれる従業員はもちろんですが、その子どもたちも“自分もいつかはあの会社で働きたい!”と誇れる会社にしようと思いました」。
 そのために必要なものは、時代の先を読む力とそれに追従できる開発力。阿部社長は独学で新技術の開発に取り組み、プロジェクターやLEDなど時代を変えた製品に貢献。秋田研磨工業は瞬間に、国内外の技術開発の一翼を担う研究開発型企業へと成長した。

歩留り99.9%超! 脅威の技術力

阿部社長の矜持である“研究開発”と“技術力”は会社の方針であり、屋台骨である。目まぐるしく変化・進化する世界で生き残るためには、常に時代の先を見据える必要があると説く。スマートフォン用サファイアガラスの加工を手がけたのもそのひとつだ。
 2013年、秋田研磨工業は高級携帯、スマートフォン用の利便性と有効性にいち早く注目し、スマートフォン用サファイアガラスの開発を進め、量産化に成功。現在は国内で唯一、その加工ノウハウを有する。今でこそ当たり前のように普及するスマートフォンだが、国内の保有率が50%を超えたのは2015年頃。進出・強化の時機を見極められた好例である。
 また、その驚異的な技術力は、数字にも如実に現れている。同社は、あらゆる製品を合わせても歩留り99.9%を誇る。
 「採算を重視することで内製化に転換しながらも、不良を低減できない大手企業も多いです。しかしうちは大手とは異なり、材料を仕入れるところから始めるため、不良品は業績に大

きく響いてきます。歩留りは技術力を上げることで解消できるもの。短納期にも応え、ここ数年、納期遅れゼロ、歩留まり99.9%以上で推移しています」。
 無駄を生まないことで利益を得る。工場内の機械設備もほとんどが自社設計のため、古くとも治工具をアップデートするだけで、最新技術による新しい製品を生み出せるようになっている。こういった仕組みも設備投資と時流の戦略を考え抜いた研究開発型企業ならではのものだ。ものづくりの基本を実直に体現するその姿勢は、若手・ベテランを問わず20余名の従業員に受け継がれている。

常識を覆す。コア技術から生まれた高級万年筆「KEMMA」

阿部社長のアイデアは分野を選ばない。2017年12月、構想から7年、満を持して高級万年筆「KEMMA」が誕生した。
 「稼働していない機械を有効活用することで、若手へ技術を継承しつつ、通常業務が手薄になる期間を埋める新事業になれば良いと考えたのがきっかけです」。
 一般的な万年筆のペン先は加工しやすい金やステンレスの先端をイリジウムなどで表面処理したものが使われているが、「KEMMA」はサファイアヤルビーを使用し、構造も空気穴を必要とする従来品とは全く異なる。インクの微小な液滴を素早く趨らせ滲るスリットは同社の微細加工の極地であり、日本とアメリカで特許を取得。その硬度によるペン先の耐久性は既製品を凌駕し、滑らかな書き味の評判も上々だ。ペン先以外の部品も秋田県内の企業が手掛ける逸品で、この1本から地域の活性化と雇用の拡大を図っていきたく阿部社長は語る。
 「今の時代、新しいことは3年と続かない。常に新しいアイデアを生み、実現するために挑戦し続けることが大切です」。

既に阿部社長の目には数年先の未来が映っている。秋田発のものづくりはこれからも時代の先端を走り続ける。



1 高級万年筆「KEMMA」。地元の伝統工芸「川連塗り」とのコラボなども展開中。
 2 同社の技術力を表現する特製サファイアガラス。内部に異なる屈折率を備える。
 3 地元の雇用を支え、地元と共に生きる。社員は20代から60代までと幅広い。
 4 人工宝石の加工手順。緻密な段取りでペン先が象られていく。表紙 本社にある「KEMMA」のショールームにて

株式会社 秋田研磨工業
 〒019-0402
 秋田県湯沢市相川字街道西15-5
 TEL. 0183-79-2001
 FAX. 0183-79-2112
 http://www.yutopia.or.jp/~kenma/

創業/1985年
 ●資本金/3,000万円 ●従業員数/22名
 ●営業品目
 基礎サファイア研磨(時計・携帯・外装部品)
 サファイア無反射コーティング
 サファイア蒸着
 サファイアエッチ 面取り研磨
 サファイアウエハ、シリコンウエハ、水晶外周研磨
 サファイアヘルメットの切断および特殊加工
 サファイア研磨テスト
 新素材研磨テスト
 ガラス水晶、石英、白板、青板、その他(各種研磨および取り)

代表取締役社長
阿部 忠雄
 あべ したお